

平成25年度
自主防災組織リーダー活動支援事業委託業務
報告書

INDEX

◆事業概要	1
◆事業内容	
●講義 / 自主防災組織の活動事例	2
●グループディスカッション	
①自主防災組織に参加された動機は何ですか？	4
②あなたの地域の自主防災活動の特長はどんなところですか？	5
③今後、あなたの地域の自主防災活動をどのようにしていきたいですか？	6
④その活動のために、あなたはどんな事ができますか？	9
●発表・まとめ	12
◆アンケート結果	13
◆評価・今後の展望	26
■別途添付資料	
研修会当日の配布資料	添付

事業概要

■事業目的

自主防災組織のリーダーを対象に、平成 25 年度自主防災組織リーダー研修を開催し、防災に関する知識や技能を修得してもらい、自主防災活動の活性化を図ることを目的とする。

■実施日・開催場所

【東部会場】平成 26 年（2014 年）3 月 15 日（土）安芸商工会館 大ホール

【中部会場】平成 26 年（2014 年）3 月 16 日（日）高知県文教会館 文教ホール

【西部会場】平成 26 年（2014 年）3 月 22 日（土）四万十市文化センター 大会議室

■事業内容・進行

13:30～13:40 開会挨拶・オリエンテーション（10 分）

13:40～14:10 講義 / 自主防災組織の活動事例 講師：高知県南海地震対策課（30 分）

14:10～14:20 休憩（10 分）

14:20～16:00 グループディスカッション（100 分）

16:00～16:20 発表・まとめ（20 分）

16:20～16:30 アンケート記入・閉会挨拶（10 分）

■配布資料

- 平成 25 年度高知県自主防災組織リーダー研修レジュメ
- 自主防災活動事例集
- アンケート用紙
- 自己紹介シート（グループディスカッションで使用）
- ディスカッションシート（グループディスカッションで使用）

■最終参加人数

【東部会場】18 名（うち市町村職員 3 名）

【中部会場】29 名（うち市町村職員 1 名）

【西部会場】57 名（うち市町村職員 5 名）

事業内容

◆講義／自主防災組織の活動事例

高知県南海地震対策課の職員より、配布した事例集をもとに、活動事例の紹介や各助成制度などをパワーポイントおよび配布された事例集により紹介が行われた。



自主防災組織の活動の柱として、日頃より防災意識の向上をすすめ、正しい知識を身につけるための『学習』的な活動、いざという時に、自分たちの地域を守り、日頃の活動を確実に実施できるようにするための『訓練』的な活動。そして今後テーマになってくるものとして、住民が安心して避難生活を送るための『避難所の運営』の大きく3つの柱があり、そのそれぞれについての活動事例が紹介される。

活動に役立つ情報等の入手について、『こうち防災ニュースレター』の案内があり、情報をタイムリーに提供するための電子メールの配信を行っているので、メールマガジンの登録を行えば、地域に役立つ正確な情報がリアルタイムに入手できるとの事であった。

また、地域の自主防災活動で学習会や研修会を行う場合、専門知識や経験を有する講師の派遣等は、県や自治体に依頼すれば手配等を行ってもらえる諸制度の紹介があった。

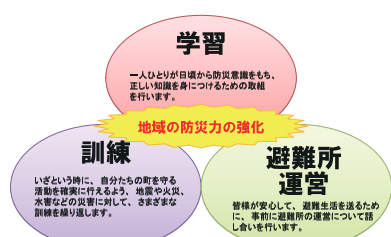
地域の自主防災組織のリーダーとなる人材の育成については、『防災士』の養成に力を入れており、防災士になるための各種助成の内容の紹介が行われた。

平成 25 年度から行っている DIG（災害図上訓練）実施の紹介があり、

今後各自主防災活動で行う場合は、専門の講師等を派遣する旨の報告があった。



～自主防災組織の活動の柱～



～自主防災活動事例集目次（抜粋）～

01. 正しい防災知識を学ぶ	
活動に役立つ情報を知りたい	01
情報の発信や共有を図りたい	02
学習会・研修会を開催したい	03
リーダーとなる人材を育成したい	04
03. 訓練を実施する	
室内で手軽に訓練をしたい	07
避難訓練の際にどのような点に留意すればよい	08
津波到達時間までに避難できるか確認したい	09
どのような訓練メニューがあるか	10
04. 避難所運営について考える	
避難所運営の課題を知りたい	12

～県内の防災活動の事例～

自主防災組織と行政が連携して進める『世帯別避難カルテ』	19
子供たちを中心とした地域ぐるみの防災活動	20
連合組織で防災活動を企画・運営	21
女性の視点で組織づくりを工夫	22
実践的な訓練を企画し、関係機関を巻き込んで課題点を共有	23
高知県自主防災組織知事表彰制度について	24

高知県自主防災組織知事表彰制度

- 推薦基準
自主防災組織の推薦基準は、次のいずれにも該当するものとします。
- (1) 継続して概ね10年以上活動している。
 - (2) 日頃から防災訓練の実施、防災に関する知識の習得及び避難施設や防災用資機材の維持点検等に努めている。
 - (3) 他の自主防災組織の模範となるような活動で、次のうち2つ以上に該当している。ただし、ア及びイについては概ね3年継続していることとする。
ア 参加者の拡大と、地域全体に活動を広げるための活動
イ 活動を継続するための仕組みづくり
ウ 工夫した活動、又は課題解決に向けた活動
 - (4) 本表彰を一度受賞した自主防災組織は、原則として表彰の対象としない。

～活動を継続するためのポイント～

- 楽しみながら活動する
- 関係機関等とうまく連携する
- 事務的な仕事を無理なく分担する
- 年齢、性別を問わず参画できる工夫をする

意見交換会

～本日お話しいただくテーマ～

- ①自主防災活動に参加された動機は何ですか？
- ②あなたの地域の自主防災活動の特長はどんなところですか？
- ③今後、あなたの地域の自主防災活動をどのようにしていきたいですか？
- ④その活動のために、あなたはどんな事ができますか？

○自主防災組織の運営には、さまざまな課題があります。

- 具体的に、どんなことしたらいいのかわからない
- 活動に参加しているのは一部の人だけ
- リーダーとなる人材がない
- 高齢化が進んで行政の支援がないと活動できない 等

こうした課題の中でも、積極的に活動している自主防災組織があります。

共通しているのは

- 楽しみながら活動する
- 関係機関等とうまく連携する
- 事務的な仕事を無理なく分担する
- 年齢、性別を問わず参画できる工夫をする

といった特徴があります。
さまざま事例なども参考に、自分たちの地域で、どのようなことに取り組めるか、取り組みたいかなど、意見交換をお願いします。

今後地域の防災活動を充実させていくためには、避難所の運営についても考えていく必要があり、今後の地域の課題として取り上げていかなければならないとの報告があった。平成 25 年度から行っている避難所運営ゲーム（HUG）に参加して、避難所運営を疑似体験し、いざという時に実際の現場で役立てていくことも今後の活動の方法の一つとの紹介があった。

また事例紹介では、市町村の枠を超えた広域的な活動や、小学校などと連携し PTA などと自主防災に参画した例などの紹介を行う。

事例集で紹介した各自主防災活動の特徴として共通しているポイントは、

- ①楽しみながら活動する。②関係機関などとうまく連携している。③事務的な仕事を、一人の人に任せるのではなく、無理なく分担している。④年齢や性別を問わず参画できる工夫をしている。

といったことが見られる。事例を参考に、今後の活動にヒントがあれば役立てていただきたい。

最後に『高知県自主防災組織知事表彰制度』の紹介があり、今年度は4つの防災組織の表彰を行ったとの報告があり、次のグループディスカッションのテーマの説明を行い、事例説明等のセッションが終了した。



◆グループディスカッション（意見交換会）

グループに分かれ、各グループ毎に意見の交換会を行う。各グループにファシリテーターを配置し、活発な討議が行われるように円滑な進行を行った。
グループ分けは津波浸水想定の有無を条件とし、市町村単位で地域ができるだけ分かれるような形で、あらかじめ振り分けを行った。

①自主防災組織に参加された動機は何ですか？

『自己紹介シート』を配布し、自分の氏名、所属組織名と自主防災組織に参加した動機を記入し、自己紹介を兼ねて各自がグループ内で発表を行う。



■東部会場



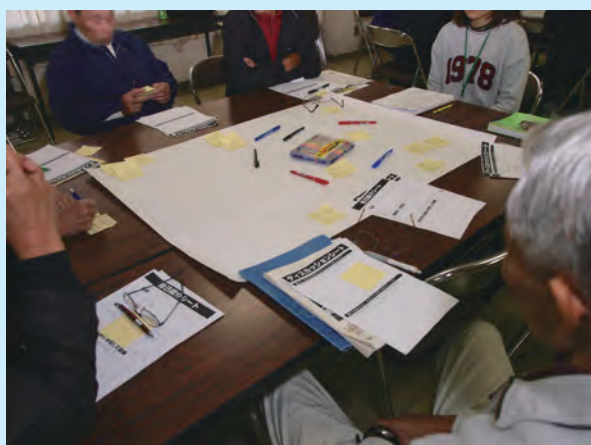
■中部会場



■西部会場

②あなたの地域の自主防災活動の特長はどんなところですか？

自分の地域の自主防災組織の特長や他にはない自慢できる事などを付箋に記入し発表し合う形式をとり、各防災組織の情報の交換を活発に行えるようにする。



今回のグループディスカッションでは、グループで一つのテーマを一緒に考え成果発表を行うのではなく、出し合った項目について深く情報を交換し、自分の地域での参考になるような事の発見と追求に重点を置くという通常の形とは違うアプローチを行った。そのため、グループ毎に模造紙やサインペンなどを用意したが、使用方法やまとめ方などは、各グループの状況判断に任せた。

③今後、あなたの地域の自主防災活動をどのようにしていきたいですか？

④その活動のために、あなたはどんな事ができますか？

各自に『ディスカッションシート』を配布し、前セッションで自主防災組織の活動情報を交換したことを受けて、今後の自分の地域の活動をどのようにしていきたいか、またその活動のためにどんな事が出来るかを各自記入した。

その後、シートを元に各グループ内で発表・コミットし、グループの代表者（東部・中部各 2 名、西部各 1 名）が全体発表の場で発表した。

記入したシートは各自持ち帰り、今後の活動に役立てる事とした。

今後、あなたの地域の自主防災活動をどのようにしていきたいですか？

東部会場での発表内容

- ◆女性や若者から高齢者まで、防災訓練への参加者を増やしていくように努める。【7 件】
（毎回内容に変化をつけて、興味をもって楽しく参加してもらえるようにするなど）
- ◆若い人たちが参加してくれるようにするにはどうしたらいいか考える。
- ◆避難所に親近感をもってもらえるように、何か名目をつけて利用してもらう。
- ◆組織の若返りをめざす。
- ◆他の組織と連携した活動をしていきたい。【3 件】
- ◆リーダーの育成。
- ◆学校を巻き込んだ訓練や活動を行う。【3 件】
- ◆隣近所で声掛けしあえる地域づくり。
- ◆集会所がないので、集いの場をつくりたい。
- ◆市の防災訓練へ参加する。
- ◆家屋の転倒対策を進める。
- ◆女性の視点を借りた訓練（例：炊き出しなど）【3 件】
- ◆さらなる防災対策をすすめる。
- ◆住民の災害に対する危機意識を向上させる。
- ◆津波が来ない場所へ生活拠点（家・学校）を移す。
- ◆災害弱者（子ども・高齢者）を助けられるようにする。
- ◆組織の体制や活動を継続させる。
- ◆集会所に専門家を呼び、講習会を住民に向けて開く。（例：棚などが倒れないようにする講習）
- ◆リアカーを備えたい。
- ◆夜間の訓練を行う。情報を広めるためにも広報活動をする。
- ◆自主防災活動のメニューの中に救護、炊き出し、避難訓練を入れる。
特に救護では、今の若い世代が被災時に他人の心身のケアをできるようにさせる。
- ◆高齢化に対応する組織づくり。
- ◆海に近い地域では、高台の避難場所を決めておく。

- ◆防災意識を向上させ、危機感を持った組織をつくり、それを地域に広める。【2件】
- ◆全員の参加を目指し、楽しみながらの活動。【3件】
- ◆女性・子どもでも使える防災グッズの充実や利用方法の認知の拡大。
- ◆先頭に立って逃げる。声掛け大事。
- ◆「津波が来たら高台へ」から、もっと身近な倒壊後の救出方法といった問題へ目を向ける。
- ◆一人暮らし以外（確認できているので）の家の状況の確認。（家具の位置など）
- ◆町内会と防災会との一体化。
- ◆集合住宅の自主防なので、理事会と相談して防災を行う。
- ◆若い人や女性の参加を目標にする。【7件】
- ◆コミュニケーションの活性化。近隣住民同士のつながりを強固にする。【3件】
- ◆避難経路を何パターンか考えてもらう。
- ◆楽しい防災。人集めはどうすべきか。地域の人を巻き込んだ防災をする。
- ◆発想力を活かした防災。発信力（メディアを使う）。
- ◆子どもの関心を動かす。（心配事にする→親を動かす）
- ◆防災倉庫の活用。
- ◆物資の購入と備蓄。【2件】
- ◆高知市との協定を、住民が納得する形で結びたい。
- ◆子どもを守る防災。
- ◆スマホなどの最新機材を使う。
- ◆要援護者の避難がスムーズにできるような策を考える。【2件】
- ◆自分が、他の人の援助をできるようにする。
- ◆講習会などを通して、家具の固定を徹底させるよう呼びかける。
- ◆効率よく消火活動が行えるように研究する。
- ◆自助、共助の意識をより強くさせるためにも、地域全体を巻きこんでの防災活動にしたい。

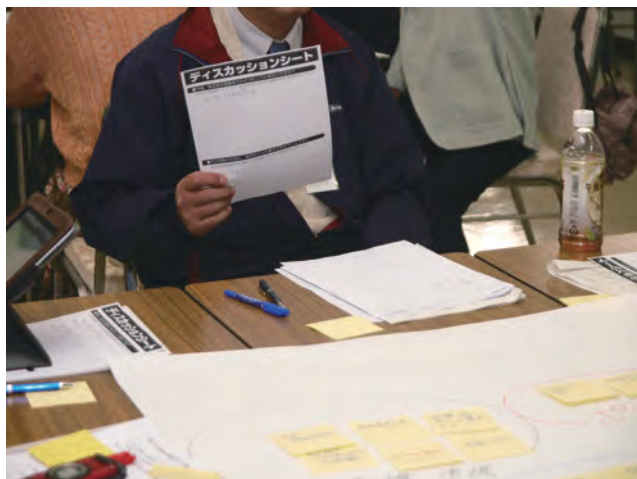


- ◆学校との防災訓練。
- ◆全員参加の防災訓練。【2件】
- ◆夏・冬・夜間の定期的な訓練。
- ◆メールの活用出来る組織づくり。
- ◆自分の安全を守る。
- ◆地区の方同士で協力する。
- ◆避難訓練の継続。
- ◆避難訓練への意識の向上。
- ◆避難訓練の開始。
- ◆若者やお年寄りを助けたい。
- ◆各個人の状況を把握する。
- ◆特に若い人に役割についてもらう。若い人への参加意識の向上、若いリーダーの育成。【8件】
- ◆他の自主防災組織や学校・企業、消防団などと連携した組織で活動する。【5件】
- ◆とにかく逃げる事。自分の命は自分で守る。【2件】
- ◆防災に対する意識の向上。【2件】
- ◆女性の積極的参加、主導。【2件】
- ◆自主完結型の自主防災組織。
- ◆全員がリーダーとも言える組織。
- ◆今の組織の体制の維持。
- ◆犠牲者ゼロを目指し、日頃より意識を高めていきたい。【4件】
- ◆山道や水路の整備をすすめていきたい。
- ◆防災倉庫の整理。
- ◆ともに逃げるために、班ごとの行動を見直す。
- ◆地域や隣近所で助け合いやつながりを、地区全体でつくっていききたい。【3件】
- ◆地域の方の避難サポートをしていく。
- ◆地区民全員の役割分担。地区民の意識を変えること。
- ◆今やっていることを継続する。出来ること、身近なことをやる。
- ◆次の世代に引き継いでいくようにする。
- ◆日々の生活で防災訓練を行う。
- ◆避難訓練や炊き出しなどの訓練を行う。
- ◆組織の強化や維持。【2件】
- ◆高いところに逃げる訓練を行う。
- ◆役員同士の話し合いをする。
- ◆火事を出さないように努める。
- ◆年に一回、イベントと平行して訓練する。
- ◆家の点検、家具の転倒防止を、高齢者にアドバイスできるような防災活動。

その活動のために、あなたはどんな事ができますか？

東部会場での発表内容

- ◆意識を高めるための勉強会。
- ◆避難所運営。
快適な避難所生活を送るためには、どのようなことが出来るか考えていきたい。
- ◆資機材の点検。お祭りやお花見等で炊き出しをしたりして、使い方を確認する。
- ◆こうち防災備えちよき隊にたのんで講習してもらう。
- ◆みんなが楽しんでもできる活動を考える。【2件】
- ◆防災活動をしている方のお話を聞いて参考にしたい。
- ◆住民に対して「自分が生き残る」「自分の命は自分で守る」ということを伝え、実践していくように働きかける。
- ◆防災対策ができない高齢者の分は、自分が代わってやってあげる。
- ◆防災グッズに不備がないか再確認する。
- ◆まずは自分が災害から生き残る。
- ◆小中学校などの学校を高台へ移転することを訴える。
- ◆自分から住民に危機意識の必要性を訴える。
- ◆行政へ自分の自主防災組織に必要な要望を出していく。
- ◆防災訓練では女性の参加率を増やすよう呼びかける。
- ◆学校を訪問し、地域で協力するという体制を作る。
- ◆災害時に役立つ研修を赤十字奉仕団員が行う。(赤十字奉仕団員の意見)
- ◆予算を防災地図の作成や広報活動にあてる。(防災組織会長の意見)
- ◆若い世代に積極的な参加を呼びかける。
- ◆横同士のつながりを強くするため、近隣住宅へ防災意識を持つように呼びかける。
- ◆リーダーや組織の担い手を、若い人に任せられるように働きかける。
(世代交代が出来るようにする)



- ◆防災に対する意識を持つ。【2件】
- ◆高知市との協定を細部まで追及して結ぶ。
- ◆自分が生き延びて、体が健康でいること。
- ◆命を守るためにあらゆることをやる。(行政・住民への働きかけ)
- ◆避難訓練と学習会。
- ◆今回のような講習会で、様々なことを学習して吸収する。
- ◆中学生とシーカヤックを使って避難訓練をしているので、さらに企業と協力して規模を広げる。
- ◆学校で子どもに災害について話し、親に伝えてもらう。
- ◆若者の参加を増やす。
- ◆講師の動員。女性・子どもの参加。
- ◆役員の意識の向上。
- ◆市に補助を申請。ひとつずつやっていく。
- ◆防災グッズの充実。家屋倒壊時の救出訓練。
- ◆補助の活用。災害区域の見直し。
- ◆耐震強化とそれに対する呼びかけ。
- ◆消火栓、建築、ブロック塀の把握。
- ◆訓練（防災倉庫のお披露目）。子ども会との連携。
- ◆世帯の様子（家具の位置、連絡先）の把握。
- ◆年一回以上の避難訓練を実施する。
- ◆訓練でしたことを実際の場で生かせるようにする。
- ◆消防団である自分の立場を考え、いかに地域住民たちと連携していくのかを考える。
- ◆他の地区と連携する。
- ◆避難経路を見直す。
- ◆災害時、役割を指示している本人が被災してしまった場合の保証を見直す。
- ◆近所同士の助け合いを呼びかける。
- ◆町内会同士が集まって大きな組織をつくり、災害時には被災者のケアをするなどできるだけ多くの人の救済に当たれるようにする。(防災組織会長の意見)
- ◆自分自身の防災意識を高めるとともに、他の人の意識も高められるようにする。【2件】
- ◆夜間の訓練を取り入れていく。【2件】
- ◆集会所で被災者の受け入れができるようにする。
- ◆訓練の充実（皆さんに笛を配る）。炊き出し。



- ◆地域の役割分担をする。
- ◆訓練や集会に積極的に参加する。
- ◆3.11 のことを詳しく意識し、対策を行う。
- ◆草刈りや倉庫の点検などを分担する。
- ◆自分の経験を役立てる。
- ◆住民のリストアップと意識度の調査。
- ◆研修や勉強会の開催。
- ◆意識の向上を行う。
- ◆常備薬を調べる。
- ◆山間部との連携。
- ◆帰って今日の話を地区民にする。
- ◆意識を高く持ってがんばっていきたい。
- ◆「全員参加」「ともに逃げる」を目標としてがんばっていきたい。
- ◆避難経路など、具体的な策を考えていきたい。
- ◆津波の到達時間までに、住民を安全に避難させるような経路の設計。
- ◆民生員と自主防災活動の見直しを行う。
- ◆交通安全・火災への備え。
- ◆各家庭で備品などを構えるように呼びかける。
- ◆避難行動計画を立てる。
- ◆各家庭で家具などが転倒しないようにする。耐震補強の推進。【2件】
- ◆防災訓練を続ける。
- ◆自分の出来ることは何でもする。
- ◆一人一人の意識を高めるようにする。
- ◆組織をつくって勉強する。
- ◆自主防災組織の強化・継続。
- ◆学校と共有できるものを探していきたい。
- ◆地区内でバーベキューとかのイベントで仲間意識を高める。
- ◆家具等の転倒防止の斡旋を、高齢者・女性宅を主に行う。
- ◆コミュニケーションを密にする。
- ◆リーダーとしての役割をする
- ◆防災訓練等の情報の発信
- ◆住民カルテの作成
- ◆後任の育成（男女問わず）



◆発表・まとめ

各グループの代表が、記入したディスカッションシートを元に発表・コミットした。
討議した内容をまとめて発表したグループもあった。
発表を受けて、県の担当者よりコメントの時間を取った。



■東部会場



■中部会場



■西部会場

アンケート集計結果

研修参加者に無記名のアンケートを配布し、回答いただいた。

- 自主防災活動意見交換会について、どうお感じになりましたか？【5 択】
- 今回の意見交換会でどのような『発見』がありましたか？【記述】
- どのような『課題』が残りましたか？【記述】
- 今後の自主防災活動などにどのように活かそうですか？【記述】
- 今後どのような研修を希望されますか？【7 項目より選択&記述】
- その他ご意見等【自由記述】

●回答率

	出席者	回答回収	回答率
東 部	18	14	77.8%
中 部	29	28	96.6%
西 部	57	32	56.1%
合 計	104	74	71.2%

1. 自主防災活動意見交換会について、どうお感じになりましたか？

●自主防災活動意見交換会について、どうお感じになりましたか？

	東 部		中 部		西 部		合 計	
大いに役に立つ	6	42.9%	8	28.6%	14	43.8%	28	37.8%
役に立つ	3	21.4%	13	46.4%	12	37.5%	28	37.8%
どちらともいえない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
役に立たない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
全く役に立たない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
記入なし	5	35.7%	7	25.0%	6	18.8%	18	24.3%

●今回の意見交換会でどのような『発見』がありましたか？

■東部会場

- ・自分の地区では行われていない取組みについて聞いた。
- ・他の地区は、活動が活発である。まず、何かをしないといけないと思った。
- ・今後の自主防災活動を進める上でのヒントをいただいた。
- ・訓練等、自主防災活動に若者層の参加がない。
- ・防災資材の使用 방법이十分徹底していない。
- ・資機材を皆の目にふれる機会をふやしていること（お祭りやお花見）。
- ・他の地域の防災について。
- ・道具の種類。
- ・津波浸水区域とそれ以外の区域との温度差の違い。
- ・楽しく活動する活動内容。
- ・学校に入り込み、連携した防災活動をすること。

■中部会場

- ・今まで津波の事案の考えが主であったが、家が転倒時と考え、バール等の準備、木の丸太の準備が必要でないか反省し、参考になった。
- ・自主防災活動の活性化について、共通の課題があるということ。
- ・老人が多くなり、若い人の参加が少なくなった。
- ・災害訓練、研修を多くする。
- ・水道が止まる。飲料水、トイレの水が止まる。
- ・取り組みやすい事例があり、参考にしたい。
- ・防災道具をすぐ使える所においておく。
- ・自分の町内の自主防災活動をもっと多くしたい。
- ・他の会で行っている活動がわかり良かった。
- ・訓練の方法。
- ・共通の課題があることを発見。
- ・防災資材の活用実施。
- ・自分の命は自分で守る。
- ・高齢者に対して、誰に連絡する等の確認。
- ・太陽光が必要。
- ・役員を増やす方法。
- ・何でも出来る事は実施する、を再確認した。
- ・地域によって防災の中身が変わり、悩みも深いし、共有できた。
- ・自主防災会によって、現在の問題が違ふことが多くある。
全てが同一になることはむずかしい。独自の防災活動に取組む必要がある。
- ・学習から訓練へが急務。
- ・必要性が異なり、知らなかった活動などを知ることが出来た。

■西部会場

- ・ 行政からの補助金を利用した訓練や資機材の整備。
- ・ 各備品点検を 2 ヶ月に 1 回実施している。
- ・ 自主防災会の役員皆様の御苦勞が理解できた。
- ・ 地域の中に学校や集会所などの施設があると有効。2 月上旬に集会所用地を無償で譲渡を受けたばかり。早期の集会所建設に尽力したい。
- ・ 婦人の参加。若い人の（子供含む）参加。
- ・ リーダー各位が真しに取り組んでいること。
- ・ 共に助け合う。
- ・ 要援護者のアレルギー、薬のチェック。女性の力の活用（女性の視点の重要性）。山間部との連携。小中学生が避難訓練に参加。学校との連携。
- ・ 防災倉庫の点検。防災士の資格がある。備蓄品についての規模。
- ・ 行事としての避難訓練と思っていたが、地区によって色々な方法があることを考えさせられた。
- ・ 津波に対する認識について温度差がある。
- ・ 皆さん同じような事で困っている事もわかったし、自分の役割と活動に生かしていきたい。
- ・ 火災探知器、消火器の呼びかけ。補助金（県市）の申請。
- ・ 地区によって、活動の差があるが、防災に対しての取り組みをもっと進めていかなければと感じた。
また、各家庭に対して、細やかな助言、手伝いができる組織を目指したい。
- ・ まだまだ今からだ。
- ・ 地区の中で防災に対する高い意識を持っておられる方も沢山いる。意見交換をすることで、新たな発見や意欲が出てきたのではないかな。
- ・ リーダーシップを育成する。新しい団地と昔からの部落との違い。防災士の育成。
- ・ 防災士の費用の補助が出るそうなので勉強会に行かしたい。
- ・ 今後若い人達の活動参加に取り組み、リーダーを育成していくことが大事。
- ・ 皆様の（地区に）さまざまの意見が聞けて良かった。
- ・ 自分の地域では欠けている物が見つかった。
- ・ 自分たちの防災会は非常に活発に活動していいこと。
- ・ 各自主防組織の万事に対する備えが非常に高いことに驚いた。
- ・ 他の自主防災活動の取り組みが良くわかった。

●また、どのようなことが『課題』として残りましたか？

■東部会場

- ・高齢化した組織の立て直し。
- ・防災リーダーの育成。人材の育成。【2 件】
- ・町内会・婦人会・社協等の協力が必要。
- ・協力や意識について、これからの課題だと思う。
- ・若年層の参加を増やしたい事。
- ・マンネリ化している活動となっている。今日から抜け出せるようにしたい。【2 件】
- ・公共への依存。
- ・日常的に活動する内容。

■中部会場

- ・危機意識が低いので、参加していただけない。
- ・町内の情報が取れない。
- ・参加者が固定される。組織構成員の高齢化。若者の参加が少ない。【4 件】
- ・参加体勢の確立。特に若い人、近所同士の助け合いが大切。【2 件】
- ・家の耐震の対策をすること。
- ・国・県・市町村など、災害発生時にはなんの力にもならない。
- ・地域のつながり。
- ・要支援者、乳幼児の把握。
- ・事業のマンネリ化防止方法。
- ・連合会組織化はどうでしょうか？
- ・避難訓練の実施が必要である。
- ・防災意識の向上を図る。
- ・実際に行動すること。
- ・津波の来ない地域の問題は、危機意識の少ない事。どうやって啓発していくか。
- ・遅れている活動を早期にすすめていかなければならない。レベルアップの必要が課題。
- ・まず学習して知識を得て活動したい。

■西部会場

- ・若者が少ない現状で大震災の時、共助の体制がとれるか心配。
- ・自主防災会の組織力、組織運営。
- ・防災行事への参加者アップ。埋め立て団地として南海トラフ地震に耐えられるか。
- ・リーダーの固定から若いリーダーの育成。
- ・全員が逃げるためにどうするか。
- ・意識が下がりつつあるので高めていくことが必要。女性部会が大きな力になる。
- ・避難訓練に積極的な参加をみんなに呼びかける。
- ・地区住民の防災意識をどう高めるか。【7 件】
- ・若い世代の取り組み。地区民全員への防災意識の高揚。
- ・一度も訓練をしていないので、実施することで課題を見つけたい。
- ・地区ごとに超高齢者ばかりになっていき、共助が心配である。
- ・防災会において、地区民の防災に対する意識改革。
- ・大地震が発生した後、自主防災会の活動開始までの手順、地域の総意を明確にする必要性を感じました。
- ・消火訓練をしても消火栓が故障したら役に立たない。
- ・自分の地域がこれからやらなければいけない状況を考えさせられた。
- ・住民の防災に対する意識を高めて、いかに訓練に参加してもらうか。
- ・高齢者、身体障害者（要援護者）の避難訓練を無理に参加させて怪我をせたらどうするかなどで、無理な強要はできない。

●今後の自主防災組織などに、どのように活かそうでしょうか？

■東部会場

- ・資機材の点検をかねて、地区の行事やイベントで使用してみる。
- ・県の事業を活用してみたい。
- ・各部会及び近隣自主防との協力を得て、視野を広げていけそうです。
- ・楽しめる行事を予定していきたいと思う。
- ・集会所の活用。

■中部会場

- ・小中学校との連携の必要性。
- ・今後、防災倉庫の設置。
- ・活性化への方策。
- ・皆の協力が必要。
- ・日頃の学習会と訓練の充実。【2 件】
- ・訓練。学習教材にしていく。
- ・小さな意見でも、実務的な応用ができる意見交換ができた。
- ・防災資材の活用（炊き出し）等を実施したい。
- ・子供から親を動かしていきたい。
- ・訓練は何度でも行う。
- ・啓発活動を地道に続けていく他ない。
- ・若年層に参加を求める必要があり、その方法を考える必要性を感じた。
- ・できないことから、出来ることを。
- ・活かす前にしなければならないことをする。

■西部会場

- ・地域住民の防災意識の向上。住民のつながり。【3 件】
- ・市との連携を強化し、情報を生かしたい。
- ・勉強会や集会の機会を増やす。
- ・住民も一人一人の意識の高揚のために必要なことを学べた。
- ・まずは全員避難。その後で炊き出し。消防等の訓練をしたい。
- ・今回ディスカッションした内容はかなり取り入れることが可能。特に女性の活躍。子供の参加。学校との連携。【5 件】
- ・地区役員になったばかりなので、急にどのようなことをとは言えない。
- ・他の組織の活動を聞くことで、今後に役立つのではないか。【2 件】
- ・現在の活動は先頭グループの活動をしていると思いますが、より課題に即応できる組織、訓練等に生かせると思います。
- ・リーダー、サブリーダーの育成が第一と感じた。特に女性の役割も重要である。
- ・地区の全員が参加できる要にするには、どのようにしたら良いか考えている。
- ・3.14 の地震の後の高齢者（独居老人）の避難状況を 1 人 1 人聞き取りして、それに対する対策を考えていく。

2. 今後、県が実施する自主防災組織リーダー研修で、 どのような研修を希望されますか？

①各個人が準備しておく対策について

選択数 35（回収%：47.3%）

■東部会場

選択数 7（回収%：50.0%）

- ・避難グッズ、固定金具等。
- ・地震（揺れ）への対策。話の話題は津波ばかり。
- ・家具や家電の転倒防止。【2 件】
- ・高齢者が多く、何もしていない家がある。

■中部会場

選択数 12（回収%：42.9%）

- ・水、食べ物、懐中電灯。【2 件】
- ・家具の固定、耐震化についての講習。【3 件】
- ・自宅で怪我をしない対策。
- ・家具等の固定金具の補助金を多くしてほしい。
- ・各個人のデーター収集。
- ・家中での一時避難場所の確保。
- ・2コース以上の避難場所の確認。

■西部会場

選択数 16（回収%：50.0%）

- ・持ち出し物は常に寝室に備えておいてある。
- ・自分が食べる分、薬など普段からすぐ持ち出しできるように準備しておきたい。
- ・家具等を固定する具体的な設置方法。【4 件】
- ・緊急持ち出し等の準備について。【3 件】
- ・避難先での区分
- ・安全帽（ヘルメット、靴、手袋、電池）
- ・具体的に必要なものをコンパクトかつ安易に用意する例。
- ・実例についての勉強会をお願いしたい。
- ・水、食料の備蓄。

②地域で行う訓練（避難訓練等）について

選択数 33（回収%：44.6%）

■東部会場

選択数 7（回収%：50.0%）

- ・ 全員参加型の訓練。
- ・ 子供から高齢者まで参加する訓練内容。
- ・ 楽しい？イベントとしての訓練の実施の仕方について。

■中部会場

選択数 15（回収%：53.6%）

- ・ 避難タワーの設置が進んでいる。完成すれば夜間訓練実施。【2 件】
- ・ 26 年度用に避難訓練を行い、各個人の避難時間の測定、三里小夜間訓練。
- ・ 地域特性、分析。
- ・ 消火活動の推進。
- ・ 地域内で若い人が参加できる方法。
- ・ 年 2 回の訓練実施を行う。
- ・ 避難後の安否確認方法を含め、行政との情報伝達訓練。
- ・ 現実的な避難訓練（3 通り）をしたい。
- ・ 何度でも実施してほしい。
- ・ 昼夜の訓練を実施。

■西部会場

選択数 13（回収%：40.6%）

- ・ 回覧で毎月注意を出している。
- ・ 区民全員で避難訓練に参加するように声かけをしていきたい。【2 件】
- ・ 全員参加をしている地区があるので、自分の地区も学びたいと思う。
- ・ 高齢者に対する具体的な訓練。
- ・ 全員が避難できるように。
- ・ 訓練の具体的な事例等。
- ・ まず洪水避難訓練を試みたい。
- ・ レスキュー訓練。
- ・ 地域に設置している消火栓を使用した訓練。

平成 25 年度高知県自主防災組織リーダー研修会

③自主防災活動の事例発表や意見交換について

選択数 19（回収%：25.7%）

■東部会場

選択数 3（回収%：21.4%）

- ・津波だけでなく、山間部の災害も検討。（ダム、地すべり等）
- ・今回のような研修。

■中部会場

選択数 6（回収%：21.4%）

- ・様々な活動報告を聞いて、地元に取り入れる。
- ・勉強会は 12 月と 1 月に行い、避難通路の整備と転倒防止金具の取り付けの例。
- ・事例発表。
- ・多くの情報が得られた。
- ・実施する地域を増やして欲しい。

■西部会場

選択数 10（回収%：31.3%）

- ・色々な地区の話などをきけて良かったです。
- ・組織より 2 名以上参加したい。
- ・他地域の良いところを参考にしたい。
- ・今回のような勉強会。
- ・具体的実践がもっとも参考になります。課題も明確になります。

④避難所運営について

選択数 25（回収%：33.8%）

■東部会場

選択数 7（回収%：50.0%）

- ・自主運営しなければならないという意識付け。
- ・これから先に必要になってくるので。
- ・今後の課題。
- ・役場、社協との連携方法について。
- ・学校長など、避難所の施設管理者も巻き込んだ訓練。

■中部会場

選択数 10（回収%：35.7%）

- ・志の強いリーダーを育てる。
- ・三里交番完成後運営の勉強となっています。
- ・連合会をつくり、事前に話し合っておく。
- ・事前準備やあらかじめ用意しておく物について。
- ・実務的な手法。
- ・学校（指定避難場所）にて講習会。
- ・女性中心の運営を行うべきである。

■西部会場

選択数 8（回収%：25.0%）

- ・26 年 9 月に工事完了のため整備して検討する。
- ・HUGを行うとき、参加者の避難場所のHUGを希望する。
- ・避難所の体育館等の実際の地区の施設を使用して、現実の物に対する訓練をしてほしい。

平成 25 年度高知県自主防災組織リーダー研修会

⑤ 応急救護や応急措置について

選択数 15（回収%：20.3%）

■ 東部会場

選択数 2（回収%：14.3%）

- ・（記入回答なし）

■ 中部会場

選択数 6（回収%：21.4%）

- ・ 医療センターで勉強を行った。
- ・ 救命講習会。
- ・ 事前に救護訓練をしておくこと。
- ・ 町内の人に実際に実施を見せてほしい。

■ 西部会場

選択数 8（回収%：25.0%）

- ・ けがに対する応急処置の仕方。〔実演講習〕【2 件】
- ・ 地区内の主となる人物に避難訓練をする方が良いと思う。
- ・ 現状（黒潮町）の方法で良いと思う。もう少し相手との連絡がとれるように検討をしたい。
- ・ 定期的に訓練をして対応していく。

⑥ 要支援者の支援について

選択数 28（回収%：37.8%）

■ 東部会場

選択数 8（回収%：57.1%）

- ・ 避難方法、個人情報と連帯。
- ・ 支援が先か、自分の命を守ることが先か、両立は可能か？
支援しなくても、自分で助かる方法を施す、見つける。
- ・ 支援訓練を試みる。【2 件】
- ・ 浸水地域に於ける自分の避難と二次災害防止の考え方。行政・消防の例など。

■ 中部会場

選択数 9（回収%：32.1%）

- ・ 県立大学で勉強を行った。備蓄食料。
- ・ 身体障害者へのケア講習。
- ・ 町内、班内で定めておく。
- ・ 自主防災組織に知らせておいて欲しい。
- ・ 要支援者の状況を早期確認。
- ・ 避難場所がない地域での居場所づくり。

■ 西部会場

選択数 11（回収%：34.4%）

- ・ 老人や障害者への対応方法について。
- ・ 地区民の状況の把握、リストアップの仕方、個人情報との関係。【2 件】
- ・ 地区内にもいるので、視覚、聴覚者等の講習を希望する。
- ・ 居住者のまわりの人が気をつける。

平成 25 年度高知県自主防災組織リーダー研修会

⑦その他

選択数 15（回収%：20.3%）

■東部会場

選択数 0（回収%：00.0%）

- ・（記入回答なし）

■中部会場

選択数 5（回収%：17.9%）

- ・全員参加するための活動内容。
- ・危機意識をどうやって浸透させているか。
- ・目的をひとつに絞り込んで、深く学習することも必要。

■西部会場

選択数 2（回収%：6.3%）

- ・県内各地に造成団地は多いと思います。造成前の地図などの提供を受け、実際地震が起きた時を想定し、そういう地域限定で学習会をお願いしたい。
- ・一度に全部は出来ないので、毎年一つ一つ実践（勉強）していきたい。

3. その他、ご意見等ご記入ください。

■東部会場

- ・大学生が入っているのはいいですね。次の世代に大きな一歩になりますね。
- ・たいへん勉強になりました。他の地域の話も聞けて、ゆっくりと意見交換できたと思います。
- ・市町村には、関係事業の説明や自主防災活動事例の説明を地区に出てやっていただきたい。

■中部会場

- ・地区の防災役員の高齢化にともない、若い人の参加と増加を図りたい。
- ・自然の恵みをいただきながら生きている我々であり、自然現象（災害）に背を向ける対策は不可。
- ・炊き出しの訓練は出来るだけ行うべきだ。
- ・女性の考え方を聞いて、勉強会を行う。
- ・避難所体験の開催。
- ・グループ別を、津波浸水の有無にしたのが良い。同じ条件の地区で話ができ、共通意識が生じる。
- ・今後、行政が中心で、早く避難施設を作るように要望。県下をまとめて自主防を作るようにしたら。
- ・自主防災活動中に被災した場合の補償をできるようにして欲しい。
- ・大変よい会議であった。特にグループでの会は、各人の話が聞けてよかった。
- ・研修会は年 5 回ぐらいはお願いしたい。
- ・個人情報の取り扱い。
- ・こうした研修会を多く開くことである。
- ・地区の防災委員会の開催日がウィークディの昼間に開催されていて出席出来ない。
午後 5 時以降とか日曜開催なら、若い世代の参加も可能ではないか。
- ・大変参考になりました。これから色々考えます。

■西部会場

- ・南海地震に備えて意識向上に努め、被害が最小になるように、個人個人の備えが大切である。
- ・自助の段階で、重傷者が発生した場合の救助を要請する手段が明確でない。
通常通信手段は使えないと考えます。以前、市の担当者から衛星電話の話がありました。
- ・会合等が重なると参加できないので、年に2～3回は勉強会をもっていただきたい。
- ・3月の地震で、会場全員（先生を含め）どのような行動をしたか知りたかった。
- ・市町村のもっと積極的な指導が必要と考えます。
- ・各組織の発表が参考になった。
- ・研修会の時間が長すぎる。

評価・今後の展望

◆参加者数

3 会場で 104 名（うち市町村職員 9 名）の参加であった。昨年度同様、県西部の出席が多く、津波での甚大な被害が想定される黒潮町と開催地の四万十市からの出席が際立ち、防災意識の温度差が感じられる。四万十市会場では、3 連休の中日という不利な日程にもかかわらず、57 名の出席があり、防災意識の高まりが感じられた。防災に限らず、県西部の参加者が多く東部が少ないという西高東低という高知県の県民性が反映されたものかも知れない。市町村によっても温度差があり、昨年同様、出欠の回答がない自治体もあった。

◆年齢層

きちんとしたデーターは取っていないが、3 会場ともに 60 歳以上の参加者が多く、自主防災組織の高齢化が懸念される。今後は若者層への参加を広げていく事が急務と考える。日頃の自主防災活動や地域の活動を拡充し継続していくためには、若者の参画が不可欠と考える。若者でも関心の有るコンテンツの検討や、参加しやすい事業の開催日程などの検討が必要と考える。高知会場で小さな子どもを持つ若い保護者が 2 名参加していた。両名とも前向きで防災への関心も高く、積極的な発言が目立った。その方の話を聞くと、仕事等の関係で昼間の開催よりも夕刻以降の方が参加しやすいとの事であった。若者層の参加を促進するためにも、検討が必要と思われる。

◆性別

3 会場で 11 名の女性の出席があった。（市町村職員は省く）東部会場では 15 名の自主防災組織関係者のうち 5 名の女性の出席で、女性の参画が強く感じられた。東部および西部会場では、グループディスカッションでの女性の前向きな言動が目立ち、改めて高知の女性の強さに感心した。今後の女性の防災活動への参画が期待される一面であった。

◆研修会の評価

アンケートにより、今回の意見交換会について『大いに役立つ』『役に立つ』が 75%以上を占め、大半の参加者が満足したと思われる。西部会場でのアンケート回収率が 56%と低く、市町村職員を除けば 61.5%となるが、3 連休の中日で帰途を急いだため、記入・回収が出来なかったものと思われる。

南海地震対策課よりの事例等の講演時間を 30 分に短縮し、グループでの情報交換のセッションに重点を置いたため、研修会自体の時間が長すぎると感じた参加者もいたが、ディスカッションでは屈託のない意見が活発に交換され、有意義にすすめられたと思う。各自の記入・発表した今後の自主防災組織の方向性や実際の行動を見ても、前向きなコミットが見受けられ、時間の長さは感じられなかったようである。

また、ディスカッションの進め方や内容を少し違ったアプローチにしたため、参加者の動向に少し危惧したが、戸惑いもなく活発な討議が行われ、様々な発見があったように感じられる。

評価・今後の展望

◆講義 / 自主防災組織の活動事例

事例集を使っの事例の報告と、県や自治体などのさまざまな支援や助成の話が行われ、今後の活動への取組みへのヒントとなった講義であった。特に小学校など他の組織との連携は、グループディスカッションでも発言が目立ち、各組織へのヒントとなったものと思われる。

◆グループディスカッション

100 分という多くの時間を取って、4つのテーマをグループ毎に討議した。ディスカッションを通して課題の抽出といったネガティブな側面より、今後の自主防災活動へのヒントを見つけてもらうようなポジティブ面の情報共有を視点に進め、各自の発表内容を見る限り一定の効果があったものと思われる。また、所見では活発な意見交換が行われ、話しの一方的な偏りもなく、全体的にスムーズな進行が出来たものと思われる。

テーマ①の自主防災活動に参加した動機を、アイスブレイキングを兼ねた自己紹介形式で行い、打ち解けた雰囲気での討議が進められた。反省すべき点は、自主防災のリーダーという方々ばかりで、自己紹介の時に自分の地域の世帯数や現状などを含めて話す方が多く、一人約 1 分という予定時間が大幅にオーバーしてしまい、テーマ②で行う予定の内容にまで入ってしまった事である。ファシリテーターに指示し、中部会場からの進行ではある程度は時間短縮できたものの、参加者の地域への意識の高さの表われだと感じ、雰囲気をグループに任せた。

また東部会場では、当日欠席があり、グループ内での地域に偏りができてしまい、日頃から情報を交換し合っている組織どうしのグループが発生してしまった。運良くそのグループには熱心な参加者がおり、進行や内容面でフォローしていただき、結果的には、スムーズで奥深い議論がなされたと思う。

テーマ②のあなたの地域の自主防災組織の特長はどんなところか？のセッションでは、特長ややっている事の付箋への記入に少し戸惑いがあり、なかなか具体的なものが出来なかった参加者がいたが、各グループともに発表をすすめる中で議論に盛り上がりができ、多くの情報の交換が出来たと感じた。特に自分の地域で出来ていなかった事などをどうしたら出来るか、どこに言っていけばスムーズに出来るか、などの情報が交換され、多くの参加者が今後の活動へのヒントが得られたものと考え。

東部会場では、小学校などの学校との連携で、多くの子どもたちの参加が得られ、子どもから大人へ情報を上げるなどの手法で、防災意識の高揚が見込まれる事。女性の視点の活用や積極参加が、自主防災組織の各種事業を楽しめるイベントとなり、参加者の増加や継続した事業展開へと動いていることなどが上げられた。

中部会場では、マンションなどの集合住宅の防災組織の参加者の情報が聞けて、世帯情報の取得の仕方や、避難場所としての課題などが議論され、地域による課題と解決方法が共有された。また、家具の固定などといった屋内耐震の重要性も議論され、必要性が再認識された。

西部会場では、組織の高齢化と地域の過疎化が活発に議論され、高台移転など行政を巻き込んだ対策などが熱心に語り合えた。

テーマ③④は、ディスカッションシートへ各自が記入しグループ内で発表する形式をとった。

今後、自主防災活動をどのようにしていきたいか？とのテーマでは、各会場ともに組織の高齢化や後継問題、若者や女性の参加が必要との発表が多く、次いで他の組織との連携の必要性、防災意識の向上となった。各自が課題を再認識し、意見交換会で得た情報を持ち帰り、今後の活動に役立てる事を得たものと感じた。

その行動のために、自分はどうなことが出来るか？のテーマでは、楽しんでできる活動を考える、自分自身の防災意識を高めるとともに、他の人の意識も高められるようにする、家具等の転倒防止対策を地域で行う、などの発表があり、他の組織との連携を行うとの発表も上がった。

全体的に各自が交換会を通じて何らかの発見ができ、主催者側が意図したテーマに沿った議論がなされ、参加者も有意義に感じられたディスカッションが行われたものと感じられる。

◆全体を通して

今回の意見交換会について、アンケートからも読み取れるように 70%以上の参加者が満足したと回答しており、活発な意見交換会が行われたものとする。

参加者のワークショップへの参加のレベルも上がってきており、一人の人に発言が集中したり、話題が大きく逸脱してしまうような事もなく、打ち解けた雰囲気での研修が行われたものとする。

◆今後の展望

より多くの参加者を見込むためには、地域に合った課題を抽出し、その課題に沿ったコンテンツで開催すればいいと感じた。また、今回のような情報交換の場も必要であろうが、アンケートでも『家具等の転倒防止』や『非常持ち出し品』『食料などの備蓄』といった個人で準備出来る対策への希望が多く、リーダーが学習して地元を持ち帰り、即実践出来るようなスキルアップ研修が今後中心となるべきと考える。参加して学んだ事を、地元に戻って自慢しながら実施出来るような研修が、参加者にとってはやりたい研修だと思われ、地域の防災意識の向上にも寄与してゆくと思う。また、実際に体を使い動きを伴うワークショップ研修だと、新鮮味があって受け入れやすくなるを感じる。今後は複数の研修メニューを用意し、参加者のレベルやニーズに合ったものを、参加者が選択し、学習出来るようにするなどの工夫も考えていければと思う。

全体を通して、『自主防災組織の高齢化、後継問題』『子どもや女性、若者層の参加』がキーワードであった。自主防災組織の活性化と継続を実現させるためには、この2つのキーワードをいかにして克服していくかが今後の課題となろう。そのためには、年齢・性別を問わず参加しやすいような日程の考慮やコンテンツの再考を行い、多くの新たな若いリーダーが現れるようにしなければならないと考える。例えば、開催日程を平日の夕方以降に行い、親子で参加できる内容や、大切な家族や子どもを守るためのお父さんのための防災講座など、地域の自主防災活動の活性化を図るためには、身の回りの防災から取り組む事が必要だと考える。

また、いつ起こるか分からない地震や津波、水害などといった事だけを考えるだけでは、継続した備えには限界があり、特に高知のような県民性では、「もしかしたら何十年先に起こる事…」を日頃から考えて行動することは受け入れられにくい面もある。『防災』に対する住民意識を向上させ、地域での継続した事業を展開していくためには、より身近な危険である『防犯』といったコンテンツを何らかの形で融合させ、地域で備えをすすめる事が、小さい子どもを持つ保護者や女性などの参画を得られ、いざというときに実際に役立つ組織と地域、そして何より自分の地域は自分たちで守るという『意識』がより向上していくのではないかと考える。